

機能に基づく日本語フィラーの使用実態：中国人日本語学習者と日本語母語話者との対照に着目して

葛, 欣燕

<https://doi.org/10.15017/1544148>

出版情報：地球社会統合科学研究. 2, pp.35-44, 2015-02-16. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

機能に基づく日本語フィラーの使用実態

—中国人日本語学習者と日本語母語話者との対照に着目して—

カツ 葛 キン エン 欣 燕

1. はじめに

日本語母語話者の日常会話を観察すると、あいづちや敬語以外に、常に「あー」「えーと」「なんか」「まあ」などのフィラー¹を発話に挿入しながら、円滑にコミュニケーションを運び、より深い人間関係を築くことに力を入れている様子が見られる。

一方、中国人日本語学習者の場合では、日常会話で使用されるフィラーの種類も、使用頻度も、母語話者ほど巧みに使われているとは言えない。それは、中国語には日本語のフィラー「あー」「そー」「えーと」と対応している「那个」「嗯」などがいくつか存在しているとはいえ、フィラーの種類が日本語ほど多くない、また、中国人は次に何を言うかが分からない時に、「那个」「嗯」の代わりに「然后（それから）」というような接続詞を使う場合が多いためであると思われる。初級中国人日本語学習者は、日本語会話能力不足のため、次の発話を検索中に、そのまま沈黙するか、時々中国語の「那个」「嗯」を入れるか、あるいは、最も典型的な「あー」「えーと」「なんか」しか使えない。しかし、学習者の日本語能力が上達すればするほど、フィラーの種類も使用頻度も、徐々に母語話者のように自然に使えるようになる。問題は、中国人日本語学習者が、フィラーを談話ストラテジーとしてどのように使っているか知ることである。また、母語話者との差異はどのような点かということも考える必要がある。

本稿では、中国人日本語学習者（以下CJLと略する）と日本語母語話者（以下JNSと略する）を対象とし、実際の接触場面の録音資料を基に、談話調節機能（発話や話題の切り出し・発話権維持・時間稼ぎ・話者交替）と対人調節機能（和らげ・ためらい・共通理解）という2つの観点から、両グループの使用実態の相違点を明らかにしたい。

2. 先行研究概観

2.1 フィラーの機能と出現位置との関わり

塩沢（1979）は、Hesitationの役割と年齢、性及び話の形態との関係について分析した。Hesitationの働きについて、主に文のコンテキスト（Hesitationが使われる位置）から検討した。

- ① 話者交替に使われるHesitationの役割は、相手の注意を引くもの、答えを考える間を補うもの及び口に出すのを躊躇していることを示すものなどがある。
- ② 文頭には、文の調子を整える役割を果たすHesitationが多い。
- ③ 文中では、次に言う内容を考えながら、助詞及び助動詞を選択している間にHesitationがよく使われる。

中島（2011）は、フィラーの機能に関して、同一形態のフィラーでも、出現位置によって、その機能が異なるため、出現位置に左右されるフィラーの機能を発話頭、発話中、発話末に分けて検討した。

- ① 発話頭に出現するフィラーは談話進行を管理する上で大きな機能を担っている。
- ② 発話中に出現するフィラーは発話展開に関与する機能を担う。
- ③ 発話末に位置することによって、言いよどみ・言い指しの標識として使われる。

2.2 フィラーの機能と談話管理との関わり

山根（2002）では、講演の談話、留守番電話の談話、対話、電話の談話の順に、まず談話の全体構造について分析し、音声面、発話・談話上の出現位置、役割、属性との関わりといった点からフィラーを考察し、フィラーの機能を以下の3点にまとめた。

- ① 間つなぎ、時間稼ぎなどの話し手の情報処理能力を表出する機能
- ② 境界指示、倒置、助詞の省略などのテキスト構成に関わる機能
- ③ 心情の高まり、発話の和らげ、注意喚起、沈黙回避などの対人関係に関わる機能

3. 本研究におけるフィラー機能の分類及び定義

3.1 談話調節機能

以上の先行研究を参考の上、本研究ではフィラーの機能を以下のように分類・定義する。

① 発話や話題の切り出し

話し手が発話開始あるいは話題転換の際に、雰囲気を作るために用いられるフィラーは、発話や話題の切り出し機能を果たしている。

(1) 模擬授業（会話例6より）

JF5：ああ、すみません、S1さん、すみません、ちょっと読んでください。

CF8：え、読むってというのは。

JF5：あ、このまま読んでもらったんでいいです。あの、単語だけ読んでください。

② 発話権維持

話し手が発話進行中、聞き手からあいづちを打たれた際に、話し手は聞き手に発話権を奪われないように、フィラーを使うことによって、話を続ける。話者交替は成立しない。

(2) 研究室パーティーでの雑談（会話例1より）

皆：(笑い・複数)

JF2：で、ベッドが別になって、

VF1²：そっか。

JF2：で、食事は、冷たい食事が、あのう、ここにおい、べ、置いたって、自分で食べてみたいな…

③ 時間稼ぎ

発話内容を考えつかない、または発話の適切さを整理する時、その間を埋める場合に使用されるフィラーは、時間稼ぎという働きをしている。

(3) ゼミでのディスカッション（会話例3より）

CF2：はい、論文は2005年ですが、

JF1：2006年ってというのは、えーと、いや、ここにはないけども

CF2：あ、ない、いや、えーと、あ、の、あのう、レジユメの、レジユメのところですけど。

④ 話者交替

フィラーを用いることによって、話し手が発話権を譲渡し、あるいは聞き手が発話権を取り、話者を交替する

ことが成し遂げられるということである。

(4) 研究室パーティーでの雑談（会話例1より）

JF2：だから、その、ねえ、お金のかけ方が違う、で、自分が苦勞しているのは知っているから、子供にはもっといい、上に行ってほしいってある。ちょっと…

CF4：今、なんか、一人っ子は小学校か、中学校↑、なんか、席を変えてもらうだけで、なんか先生にお金を出さないと、してもらわない。

3.2 対人調節機能

⑤ 和らげ

聞き手の気持ちを損ねないことを優先的に考慮し、依頼、勧誘、不同意表示、問いかけの場合に、聞き手に負担を強いたり面子をつぶす恐れがあったりする発話を和らげる。

(5) ゼミでのディスカッション

JF2：出している、かなり出している。

JF1：あ、あのう、この後、かなり出しているから、まあ、それはちょっと見たほうがいい。

⑥ ためらい

発話のためらいは、話し手が自分自身の気持ちを優先的に考慮し、フィラーを使用することによって、それを聞き手に察知させる。あるいは、情報について確定できない、また断言できない場合に使われる。

(6) 研究室パーティーでの雑談（会話例1より）

CF4：愛があって、結婚するわけではなく、

JF2：いや、その時は愛あるんだよ。その時はあるっぽい。あると信じたいの、本人たちは。

CF4：うんうんうん。

JF2：と、自分、愛があると、思い言い聞かせての、自分に、愛がある、愛があるって。

CF1：実はあるかどうか自分も★分からない。

JF2：→わからない←そうそうそう。なら、でも、まあ、そんなもんだよ。

⑦ 共通理解

フィラーによって、自分の心的態度を表し、相手を自分側に引き込むようにする。話し手はフィラーを用いて、共通理解を組み立て、談話を滑らかに進行させる。

(7) 研究室パーティーでの雑談（会話例1より）

CF5：でも、今、電撃結婚が多くなって、三ヶ月で結婚す、結婚して、**もう**、一年もしないうちに、また離婚している。

VF1: (笑い) 若いから

CF1：半年ぐらいはすごく多いです。

CF5：うん。

4. 研究方法

まず、自ら収集した接触場面の会話データを文字化し、会話資料を作成する。次に、この会話資料から、日本語母語話者と中国人日本語学習者が用いているフィラーをそれぞれ抜き出す。そして、①フィラー使用のバリエーション及び各フィラーの使用率 ②談話調節機能に基づく使用実態 ③対人調節機能に基づく使用実態という3つの側面から、母語話者と学習者がどのようなフィラーをどのように使用しているかを調べ、母語話者と学習者の談話管理におけるフィラーの使用実態を比較対照する。

5. データ収集について

本調査では、日本語母語話者（以下JNSと略する）と中国人日本語学習者（以下CJLと略する）のフィラーの使用実態を明らかにするため、JNSとCJLという2つの被調査者グループを設定した。日本に滞在期間が日本語フィラー使用に影響を与えている可能性を考慮した上、CJLは、日本滞在期間3～5年で、日本語言語学を専門とする大学院生8名にした。JNSは全員日本在住者7名である。本稿に使用される会話資料は2012年7月から2013年7月にかけて、被調査者の性別、年齢、職業などの要素に限定せず、福岡で録音した自然会話である。今回の会話資料は計7つの会話例を含め、録音時間が合計50分09秒である。調査対象者の属性は以下のとおりである（表1、2参照）。表記については、日本人をJ、中国人をC、男性をM、女性をFで表示し、その後ろに番号をつけた。

表1 日本語母語話者 (JNS) の属性

発話者コード	性別	年齢	職業
JF1	女	50代	教授
JF2	女	20代	大学院生
JF3	女	20代	大学院生
JM4	男	30代	大学院生
JF5	女	20代	大学院生
JM6	男	20代	フリーター
JF7	女	20代	大学生

表2 中国人日本語学習者 (CJL) の属性

発話者コード	性別	年齢	職業
CF1	女	20代	大学院生
CF2	女	20代	大学院生
CF3	女	20代	大学院生
CF4	女	20代	大学院生
CF5	女	30代	大学教師
CF6	女	20代	大学院生
CF7	女	20代	大学院生
CF8	女	20代	大学院生

6. 分析結果

6. 1 JNSとCJLのフィラーの総使用率

まず、会話資料からJNSとCJLの発話文にフィラーが出現した発話を取り出した。そして、フィラーの出現数がそれぞれ総発話数に占める割合を算出した。結果は、以下の表3に示す。

表3 JNSとCJLの発話におけるフィラーの使用数と割合³

発話者	発話文数	フィラーの使用数	割合 (%)
JNS	341	262	76.8
CJL	329	111	33.7

表3で示されたように、JNSのフィラーの使用数は、全341発話文中262である。CJLの場合では、合計329の総発話文の中111のフィラーが現れている。割合から見ると、JNSのフィラー使用率は77%程度であるのに対し、CJLの場合は約34%であり、JNSの使用率の約二分の一程度である。以上の結果から、JNSがCJLよりフィラーを多用していることが分かった。

6. 2 JNSとCJLの各フィラーの使用数および使用率

次に、JNSとCJLが使用した各フィラーの具体的な使用数および使用率を以下の表4で示す。

表4 各フィラーの使用率⁴

フィラー	JNS (%)	CJL (%)	フィラー	JNS (%)	CJL (%)
あ	5.34	6.3	まあ(ま)	14.1	3.6
ああ	1.91	9.01	もう	2.67	3.6
あの一類	11.8	18.9	で(で一)	10.3	9
こ(こう)	3.82	1.8	なん	0.38	1.8
この	0.38	1.8	うん	0.76	2.7
そ(そう)	2.29	0.9	んー	1.53	0
その	11.5	2.7	ほら	0.38	0
えーと類	11.1	13.5	いや	1.15	2.7
なんか類	12.6	18.9	ねえ	0.38	2.7
ちょっと類	6.11	1.8	すっ	1.53	0

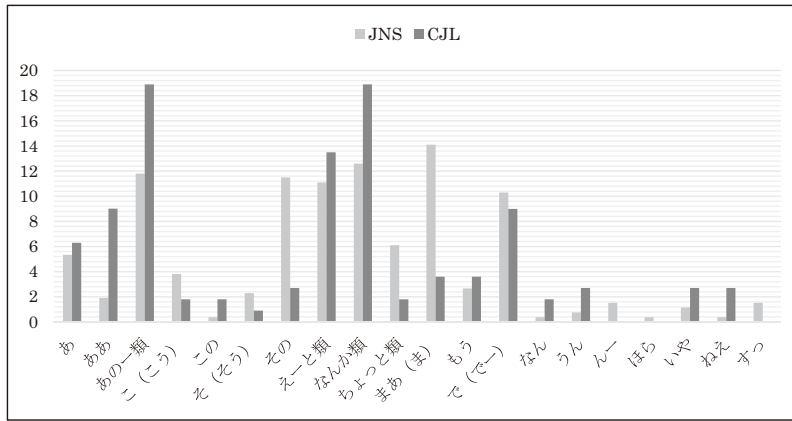


図1 各フィルターの使用率

- ① 全体的に各フィルターの使用率は、CJLよりJNSのほうが高い。
- ② CJLが全く用いていないフィルター：「んー」「ほら」「すっ」
- ③ CJLよりJNSの使用率が高いフィルター：「こ(こう)」「そ(そう)」「その」「ちよっと類」「まあ(ま)」
- ④ JNSよりCJLの使用率が高いフィルター：「ああ」「あの一類」「この」「えーと類」「なんか類」「なん」「うん」「いや」「ねえ」

表5 機能別JNSとCJLのフィルターの使用頻度と割合

機能		グループ		JNS		CJL	
		使用頻度	割合 (%)	使用頻度	割合 (%)		
談話調節	発話や話題の切り出し	3	1.1	1	0.9		
	発話権維持	13	5.0	5	4.5		
	時間稼ぎ	148	56.5	65	58.6		
	話者交替	18	6.9	12	10.8		
小計		182	69.5	83	74.8		
対人調節	和らげ	45	17.2	3	2.7		
	ためらい	15	5.7	2	1.8		
	共通理解	20	7.6	23	20.7		
小計		80	30.5	28	25.2		
合計		262	100	111	100		

6.3 談話管理に基づくJNSとCJLの使用実態

会話資料の分析結果に従い、談話調節におけるJNSとCJLの各機能の使用頻度及び割合は以下の表5で示す。

表5の量的分析の結果は、以下の3点にまとめられる。

- ① 全体的にはJNSとCJLともに、「談話調節機能」のフィルターの使用率が「対人調節機能」の使用率より高い。
- ② 「談話調節機能」の内訳を見ると、フィルターの各機能の使用率は、JNSとCJLはほぼ同様である。そのうち、「時間稼ぎ」という役割を果たしているフィルターの使用率は他の3つより遥かに高い。「話者交替」は、JNSよりCJLのほうが多く用いている。
- ③ 「対人調節機能」の下位項目を見ると、「和らげ」、「ためらい」それぞれの使用率はJNSのほうがCJLより高い。「共通理解」については、CJLのほうが多く使用している。

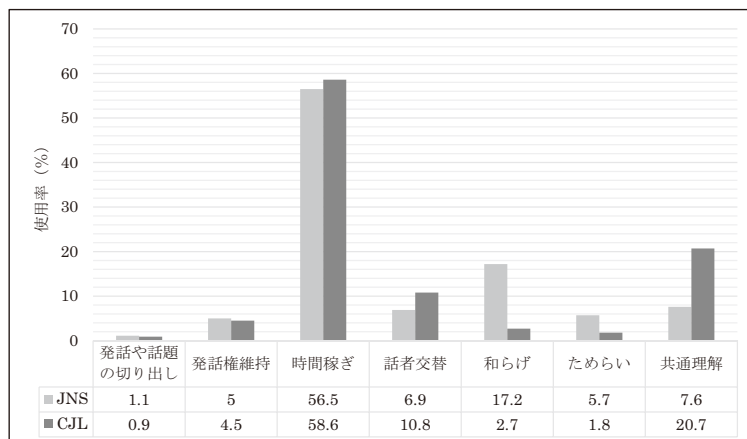


図2 機能別JNSとCJLのフィルターの使用率

7. 考察

フィラーを談話ストラテジーとして、談話を管理することにおいては、JNSはより相手の心情を考慮しながら、発話を和らげ、躊躇する傾向が見られる。これに対して、CJLは、発話を整理するための時間を稼いだり、発話権を取ったり、談話調節のためのフィラーを多用している傾向があると見られる。本節では、JNSとCJLのフィラーの使用実態の相違点について詳しく分析してみる。

7. 1 談話調節機能に基づくJNSとCJLの使用実態

「談話調節機能」の4つの下位項目の中、「発話や話題の切り出し」、「発話権維持」、「話者交替」は、JNSとCJLの差があまり見られないため、ここでは詳細に考察しないことにする。「時間稼ぎ」の機能のフィラーは両グループにも頻繁に使用されている。このことから、「時間稼ぎ」はフィラーの最も一般的な機能と考えられるだろう。ただし、JNSとCJLの「時間稼ぎ」という機能を果たしているフィラーの使用率はほぼ同様であるが、その具体的な使用実態を見てみると、大きな差異が出ている。以後、実例に基づき、「時間稼ぎ」について、JNSとCJLの相違点を解明していく。

まず、JNSの「時間稼ぎ」についての発話例を見てみよう。例(8)はゼミでのディスカッション場面である。CF2の「謝罪における日中の相違点」についての発表に対して、JF1は自分の意見を述べている。

(8) ゼミでのディスカッション (会話例3より)

CF4	で、学生は先生に謝るんですか。
JF2	学生はこっちでも、★そっちでも
JF1	→両方にも←謝る。
JF2	両方でも謝る、こっちでも (笑い)
JF1	うん、うん、ていうようなのがあるんですよ、 <u>なんかね、こう</u> 、こういう、 <u>その、ほら</u> 、もちろん類型も必要だし、その誠実条件とほんじつ条件もあるんだけど、 <u>なんか</u> 、そういう <u>こう、こう</u> 、具体的な場面に目指して、違いがあるんですよ。 <u>なんか</u> 、そこを出したほうが面白いかな、だから、その場合に、ドラマを使ってもいいです。それは、で、そのドラマが、 <u>えーと</u> 、ドラマ使ったものを、 <u>あのう</u> 、 <u>なんか</u> 、アンケートとかして、 <u>あのう</u> 、日本人と台湾の人、全然違う。学習者と日本人が全然違う反応すると、そのアンケートに対して、それだったら、やってもいいですよ。
CF2	はい。

CF2の謝罪に関する今後の研究方向に対して、JF1はアドバイスを出す際に、情報を小出しにしながら、「なんかね」、「こう」、「その」、「ほら」、「なんか」、「で」、「えーと」、「あのう」という合計8種のフィラーを巧みに転換し、長い発話に埋め入れることにより、ペースを整え、時間を稼いでいる。特に思考時間が長い場合には、単一のフィラーを繰り返したり、いくつかのフィラーを重複して出現させたりするのではなく、「なんかね、こう、こういう、その、ほら」のように何種類ものフィラーを入れ替えながら、次の発話を検索している。このように、聞き手にも落ち着いた感じが伝わるだろう。

次に、CJLの「時間稼ぎ」の実例を示す。例(9)はJF3が教師を、CF7が学生を演じる日本語模擬授業である。録音を流した後、教師JF3は学生CF7に録音の内容を復唱させている。

(9) 日本語教育模擬授業 (会話例4より)

JF3	何か聞こえましたか。
CF7	<u>えーと</u> 、第二地域の方が、 <u>あのー</u> 、きよだ、 <u>ああ</u> 、巨大な文明から、 <u>えーっと</u> 、制度を取り入れて、 <u>えーっと</u> 、例えば、中国からー、は、 <u>ああ</u> 、発生した、封建制度を、 <u>えーっと</u> 、日本で、全国を統一され、そして、 <u>えーっとー</u> 、長い歴史を通して、 <u>えーっと</u> 、成立される、ました。先生、ここで、わからないところなんですけど
JF3	はい。

CF7はJF3の質問に対して、まず、「えーと」を発することによって、応答する前に短い検索時間を稼いでいる。そして、一発話が終わった後フィラーを挿入するのではなく、多くの場合文節と文節の間にフィラーを入れながら言いよどんでいる。しかも、使用されているフィラーは「えーと」、「あのー」、「ああ」の3種類しかない。JNSの発話のように何種類ものフィラーが連続して出現するのではなく、同じ種類のフィラーを繰り返しながら、発話の中に入れ込む形である。このような発話は、聞き手に話し手のフィラーの種類の少なさや日本語の流暢さの不足などという印象を与える。また、話し手が緊張しているという雰囲気も窺われるだろう。

このように、時間を稼ぎたい場合、JNSは何種もフィラーを巧妙に交替させ、思考時間が長い際には、フィラーを連続して取り入れる形で話をスムーズに進めていく一方、CJLは文節の間、あるいは単語の間に、日常生活で最も頻繁に使われているフィラーを一つずつ入れながら、発話を進行させていくという違いが見られる。

7. 2 対人調節機能に基づくJNSとCJLの使用実態

「対人調節機能」の下位項目の「和らげ」、「ためらい」、「共通理解」の使用率を見ると、「共通理解」を除き、JNSはCJLより高い。しかし、「共通理解」という役割を持っているフィラーの使用率はCJLのほうが高い。

本節で詳細に考察したいのは、対人関係には大きな役割を持っている「和らげ」と「ためらい」である。会話資料を分析してみると、「まあ」、「なんか」、「ちょっと」などのフィラーは常に対人調節のストラテジーとして使われている。この中で、90%以上の「まあ」は人間関係を保つために使用されており、対人調節機能におけるフィラーとしては、最も代表的な表現形式だと言えるだろう。7.2.1では先行研究を踏まえ、「まあ」の意味機能を概観し、7.2.2ではJNSとCJLの「まあ」の使用実態を明らかにすることによって、対人調節機能における両グループの相違点を解明していく。

7. 2. 1 「まあ」の機能と対人調節との関わり

「まあ」の意味機能について、近年多くの研究がなされてきた。たとえば、川上（1993：77）は、「まあ」の基本意味とは「概言」、すなわち「いろいろ問題はあるにしても、ここではひとまず大まかに引きくくって述べる」と捉えられ、川上（1994：69）は、談話中に「まあ」が挿入されることによって、話し手にとっては談話展開の助けとなり、また聞き手にとっては理解行為の助けになると述べている。加藤（1999）は、実例に基づいた分析から、「まあ」の機能を「とりあえずの反応」と解釈し、『まあ』が用いられる状況に応じて、『とりあえずの反応』が自分の発話内容を発展させていくとまとめた。また、富樫（2002：24）では、「まあ」の本質的機能「ある前提から結果へと至る計算処理過程があいまいであることを示す。あるいは計算に至る際の前提そのものが明確ではないことを示す。」と述べられ、さらに、「まあ」の語用論的フィードバックによる効果から、『まあ』が表す処理の曖昧性から生じる『和らげ』とその明確性を隠すことができる」と捉えている。

富樫（2002）の研究を踏まえ、本稿では、「まあ」を「和らげ」と「ためらい」という2つの役割を持ち合わせると捉え、「まあ」は人間関係を調節するために常に用いられていると考える。

7. 2. 2 JNSとCJLの「まあ」の使用実態

本節では、「まあ」の「和らげ」と「ためらい」という2つの機能を取り上げ、実例に基づき、JNSとCJLの「まあ」の使用実態を明らかにすることにより、両グループの対人調節機能における相違点を解明する。

まず、JNSの「まあ」の使用例を見てみる。例3はゼミでのディスカッション場面で、JF1はCF2の研究課題についてアドバイスを与えている。

(10) ゼミでのディスカッション（会話例3より）

JF1	うん、① <u>ま</u> 、それ、ちょっと見てみたらいいのかな。これ、② <u>まあ</u> 、もちろんその、あれなんだけど、それ以上のものがちょっとないので、で、これから広げるとしたら、なんか、③ <u>まあ</u> 、Kさんはそう、そんなにしなかったんですよ、その中の表情とかなんかって言うふうなので、すごく面白くそう、その顔の表情をやっていたんですよ。顔、なかなかちょっと、で、もう、その後、だから、顔の表情は、もう、これ以上やってもいいだなあ、その時、やめていたんですよ。(笑い)それは、そここのとこでやめたんですけど、あのう、一応、その時には、その顔の表情とかって言うふうなのを使っていたんですよ。
CF2	はい。
JF1	なんだけど、④ <u>まあ</u> 、そうじゃないところでも、こういう場合に上司が謝るとか、謝らないとかって言うのも、ちょっと全然違う↑ところなので、なんかね、そういうところに焦点を当てて、たくさん例文を取る。
CF2	はい。

例10では、4ヶ所に「まあ」が出現している。「①ま」は、JF1が提案を出す前に、自分の意見を相手に押し付けないように、発話を和らげる効果を持つ。「②まあ」の現れるところの文脈を分析すると、この「まあ」は「和らげ」と「ためらい」どちらの意味合いにもあまり含まないのではないか。川上（1993、1994）の言うところの「話題展開」という役割を働いていると考えられる。つまり、聞き手を配慮して、自分の意見や見解をいかにスムーズに展開させて伝えるかという心内計算に入っている。そして、「③まあ」は聞き手がしていなかったことを表明しているのだが、聞き手にとって好ましくない話題に触れる前に、「まあ」を挿入することによって、聞き手への損害を減少させる。「④まあ」は、JF1は「まあ、そうじゃないところでも…」という発話を通じて、「自分が述べた見解は決して正しいとは言えない」という態度を表す。これは「まあ」の「曖昧性」標識の本質的な機能から派生して、聞き手に解釈されると考えられる。ある程度「和らげ」という役割につながっていると思われる。

次に、CJLによる「まあ」の使用実態について、実例

を見ながら考察していく。表5を参照すると、曖昧性を表す「まあ」の使用はJNSの37回に対し、CJLは4回しかないことが分かった。次の例11は研究室のパーティーの場面で、医者と患者の家族の間の不審なお金のやり取りについての会話である。医者が陰で患者の家族からお金をもらっている現状に対して、皆が議論している。

(11) 研究室パーティーでの雑談 (会話例1より)

CF6	私の母は病院で働いていますが、彼、あ、彼女に、(笑い)お母さんによりますと、実は、な、お金とか、何もくれなくても、★ちゃんとやるんですけど、お母さん
VF5	→ちゃんとやるんですけど←うん、うん、うん
JF2	お金は別に、いりませんとは言わない、
CF1	言わない
CF5	ははは、(笑い・複)
JF2	まあまあ、くれるんだったら、★どうもどうも
CF4	→くれるんだったら、そうそう←
CF5	いや、人によっては、⑤[ま]、もらえたくない人もいるけれども (JF2:うん)⑥[まあ]、そういうふうなっているから、たぶん
JF2	もらわざるを得ない。
CF5	実際同じかも
CF4	今表にしなくて、あのう、先生、はい、あげるみたいのと言わない、先生も、もういらんとか、★いや、いいよ。
CF5	→いわない、当たり前←
JF2	ぼっ、ポケットに
VF1	上手、上手に渡さない★いけない。
CF5	→そうじゃないといけない。←

CF6は自分の母が病院で働いていることから、実際にお金をあげなくてもちゃんと治療してくれると述べ、VF5はそれを理解した。しかし、JF2の「お金は別に、いりませんとは言わない」という発話から、「もし患者がお金をくれたら、断らずに受け取っている」と解釈され、つまり、CF6が言ったことをすべて認めるわけではないことが察知される。それから、みんなで病院での陰のお金の扱いについて、議論が盛り上がり、結局、現在の病院では、患者が医者に陰のお金を渡すのはある程度決まりのようになっているという結論が導かれた。例11の中で、CF5の発話に、「まあ (あ)」が2回使われている。「⑤ま」はJF2の観点に対して不同意を示す前に出現し、「聞き手の心情を損なわないように、話を和らげる」効果を持っている。そして、「⑥まあ」は逆接

の後に現れ、CF4は「人によって、もらいたくない人もいる。」という情報に対して「曖昧性」を与えている。「もらいたくない人は、お金をくれても断るとは断言できない」という婉曲で控えめなニュアンスが「⑥まあ」発話によって生じる。つまり、「⑥まあ」は曖昧性から派生する「和らげ」の効果을帯びていると考えられる。

以上、JNSとCJLの「まあ」の使用例をそれぞれ見てきた。「まあ」の使用回数と使用率から、CJLよりJNSにはこのように「まあ」を使って、話を和らげたり、ためらいを表明したりする婉曲な表現が多く見られる。

7. 3 まとめ

本節では、日本語がほぼ同じレベルの中国人日本語学習者と日本語母語話者の会話資料に基づき、談話管理におけるフィラーを「談話調節機能」と「対人調節機能」という2つの観点から、両グループの使用実態と差異を分析した。その結果は以下のようにまとめることができる。

7. 3. 1 「談話調節機能」から見たJNSとCJLの差異

今回の調査に通じ、使用言語が母語であるかどうかにかかわらず、JNSとCJLとともに、談話の中でフィラーの「コミュニケーションを滑らかに進行させる」という「談話調節機能」を「対人調節機能」より意識しており、割合から見れば、JNSは69.5%であり、CJLは74.8%であり、両方とも過半数を占めていることが分かった。また、「談話調節機能」の下の「発話や話題の切り出し」、「発話権維持」、「時間稼ぎ」、「話者交替」という4つの下位項目それぞれの割合の順位を見ると、JNSとCJLは同様に、一番高いのは「時間稼ぎ」であり、次に続くのは「話者交替」であり、割合が最も低いのは「発話や話題の切り出し」であることが明らかになった。さらに、JNSとCJLの「時間稼ぎ」の割合は、「談話調節機能」と「対人調節機能」のすべての下位項目を含めて、全体の50%を占めていることから、フィラーの本質的な役割は「時間を稼ぐこと」であろうと思われる。

JNSとCJLは「談話調節機能」におけるフィラーの使用実態は割合から大まかに見れば、ほぼ同様であるが、7.1での考察から、差異が全くないとは言えない。フィラーによる時間稼ぎにおいては、JNSはフィラーの種類を転換させ、意味の切れ目に入れたり、検索時間が長い場合には、多様なフィラーを挿入したりする方法を通じて、発話をスムーズに進めさせる工夫をしている。一方、CJLは「あー」「えーと」「ああ」「なんか」など日常生活によく使われているフィラーを頻繁に挿入して情報処理の時間を稼いでいる。さらに、フィラーの出現

場所もあまり決めておらず、助詞あるいは接続詞の後ろや、語彙あるいは文節の間に、ただ沈黙を防ぐために一応フィラーを入れておくということも見られた。

7. 3. 2 「対人調節機能」から見たJNSとCJLの差異

表5に示したように、「対人調節機能」の下の「和らげ」、「ためらい」、「共通理解」それぞれの割合を見てみると、JNSは相手の心情を損ねないように、婉曲表現としての「和らげ」の使用率が最も高く、全体の17%近くを占めている。次は、聞き手と共有したい気持ちを表し、あるいは、聞き手を自分側に引き込もうとする「共通理解」の使用であり、その使用率は7.6%である。自分と自分の周りの人のことやあまり相手に知られたくないことについて、話を躊躇している「ためらい」の使用率は比較的に低く、5.7%である。これに対して、CJLのほうは、「共通理解」という意味機能が最も多く使われ、全体の20%程度を占めており、2番目は「和らげ」の2.7%、使用率が最も低いのはJNSと同じく「ためらい」という役割を持っているフィラーで、その割合は1.8%となっている。

CJLの「和らげ」と「ためらい」の総使用率は「共通理解」の使用率と比べると、遥かに低いことから、CJLはフィラーを談話戦略として用いることを通じて、良好な人間関係を保つという点をあまり意識していないことが明らかになった。その原因の一つは、「聞き手の心情を配慮してスムーズな談話展開を促し、人間関係を調節する」という機能を持っている「まあ」をJNSほど巧妙に使えない可能性もあるだろう。これは、曖昧や婉曲な表現が好まれるJNSに対し、CJLはより直接的な表現を選択している傾向が見られるためと考えられる。

8. おわりに

本稿では、談話管理におけるJNSとCJLのフィラー使用の相違点について、自然会話資料を観察し分析を行った。その結果は以上のようにまとめられた。ただし、今回の会話資料に関して、いくつかの不十分なところが存在していることをここで提示しておかなければならない。

- ① 場面のフォーマル度、調査対象者の年齢層を限定していなかった。
- ② タスク中心ではなく、自然な会話を録音したため、すべての場面を含めるとは言えない。
- ③ 中級以上の日本語レベルを持っているCJLを調査対象にした。
- ④ JNSとCJLともに女性が中心となっている。

まず場面のフォーマル度を制限すると、JNSとCJLの

談話管理において、新たな差異が発見されるかもしれない。また、今回の調査は女性の会話が中心となっているが、フィラーによる談話管理が男性の言語生活の中でのように位置付けられるかについても、研究する余地がある。さらに、本稿ではJNSとCJLのフィラー使用実態の対照を行ったが、CJLの日本語能力を初級、中級、上級に分けて、各日本語レベルのCJLのフィラー使用実態を縦に分析して、フィラー機能についての認識を明らかにすることも、意義があると考えている。

¹ 先行研究から、「まあ」「あの一」「えーと」「なんか」などの言語形式は様々な名称を持っていることが分かった。国語学においては、これらの表現を「品詞」として取り扱い、山田(1936)は「感動副詞」、佐久間(1943)、橋本(1948)は「感動詞」と名付けた。また、小出(1983)は「言いよどみ」と呼び、山根(2002)は「フィラー」という名称をつけた。本稿では、山根(2002)を参照して、これらの形式を「フィラー」と呼称する。

² 会話例1には、ベトナム人の女性(VF1)が会話参加者の一員ですが、本稿の調査対象者ではないため、VF1の発話は全て分析対象外とする。

³ 一発話に複数回フィラーが使われることもある。

⁴ あの一類:あの一、あの一、あの一
えーと類:えーと、えーと一、ええと、ええっと、えー
なんか類:なんか、なんかね、なんかとか
ちょっと類:ちょっと、ちょっとね

参考文献

- エメット啓子(2001)「なんか一会話への積極的参加を促すインターアクションルマーカ―」南雅彦・アラム佐々木幸子(編)『言語学と日本語教育Ⅱ』くろしお出版 pp.201-217
- 加藤豊二(1999)「談話標識『まあ』についての一考察」『日本語学・日本語教育論集』6 pp.21-36。
- 川上恭子(1993)「談話における『まあ』の用法と機能(一)―応答型用法の分類―」園田国文 pp.69-78
- 川上恭子(1994)「談話における『まあ』の用法と機能(二)―展開型用法の分類―」園田国文 pp.69-79
- 川田拓也(2007)「日本語談話における『まあ』の役割と機能について」南雅彦(編)『言語学と日本語教育Ⅴ』くろしお出版 pp.175-189
- 金水敏(1983)「感動詞」『研究資料日本古典文学 12文法』明治書院 pp.131-134
- 小出慶一(1983)「言い淀み」水谷修(編)『講座日本語の表現3話しことばの表現』筑摩書房 pp.81-88

- 定延利之編 (2002) 『「うん」と「そう」の言語学』 ひつじ書房
- 定延利之・田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識『ええと』と『あの(-)』—」 言語研究108 pp.74-93
- 塩沢孝子 (1979) 「日本語のHesitationに関する一考察」 F.C.パン (編) 社会言語学シリーズNo.2 『ことばの諸相』 文化評論出版 pp.151-166
- 周莉 (2012) 「依頼のロールプレーにおけるフィラー」 日本語言語文化研究16 pp.17-28
- 田中敏 (1981) 「日本語発話における言い淀み現象の分類と特徴づけ」 心理学研究52 (4) pp.231-218
- 富樫純一 (2002) 「談話標識『まあ』について」 筑波日本語研究7 pp.15-31。
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文法—疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞—』 おうふう
- メイナード・K・泉子 (1993) 『会話分析』 くろしお出版
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』 くろしお出版

The usage of Japanese fillers based on their functions: A comparison between Chinese learners of Japanese and native Japanese speakers

Xinyan Ge

The aim of this paper is to examine the actual usage of Japanese fillers based on their functions. Most of the recent studies on Japanese fillers focus on types, forms, frequencies, functions and so on. However, few studies have examined the difference between Chinese learners of Japanese and native Japanese speakers from the viewpoint of discourse management. The data for this study consists of seven sets of conversations collected from eight Chinese learners of the Japanese language who have stayed in Japan for 3 to 5 years and seven native Japanese speakers. I analyzed and compared the actual usage in the two groups from the perspective of discourse adjustment functions (starting an utterance or a topic, floor-holding, buying time, turn-taking) and personal adjustment functions (softening, hesitation, common understanding). The results show that starting an utterance or a topic, floor-holding and buying time are the most common functions, for both Chinese learners of Japanese and native Japanese speakers. In contrast, Chinese speakers use softening and hesitation less often than native speakers. One possible reason is that there are not as many fillers in Chinese as there are in Japanese. Compared to Chinese learners of Japanese, native Japanese speakers prefer euphemisms to direct expression.

Key words: Japanese fillers, discourse adjustment function, personal adjustment function, Chinese learners of Japanese, native Japanese speakers